

# I . 円海山周辺の緑地の保全管理計画のめざすもの

## 1 . 保全管理計画策定の経緯とねらい

円海山周辺の緑地は、横浜市緑の七大拠点の1つである市内最大の緑地である。神奈川県東部で最も大きな、三浦半島の先まで続く緑地の一角にある。緑地の中にはいたち川、大岡川、侍従川、宮川の4本の源流がある（図1、「水と緑の基本計画」より転載）。多くの生物が生息しており、多くの市民が、散策・自然観察・環境学習・森づくり活動などに利用している。

図1 . 横浜の緑の七大拠点と川  
「水と緑の基本計画」(横浜市 2006)より転載  
ピンクの囲みは近郊緑地特別保全地区付近

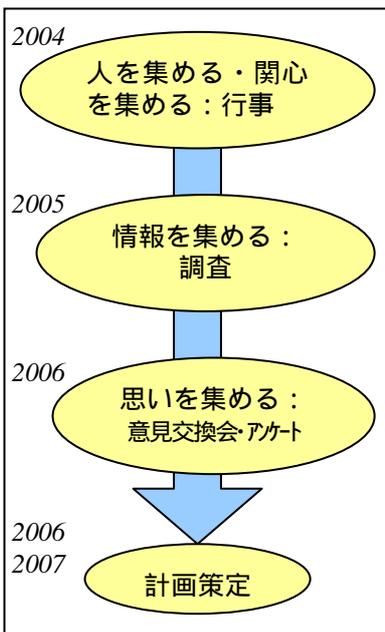
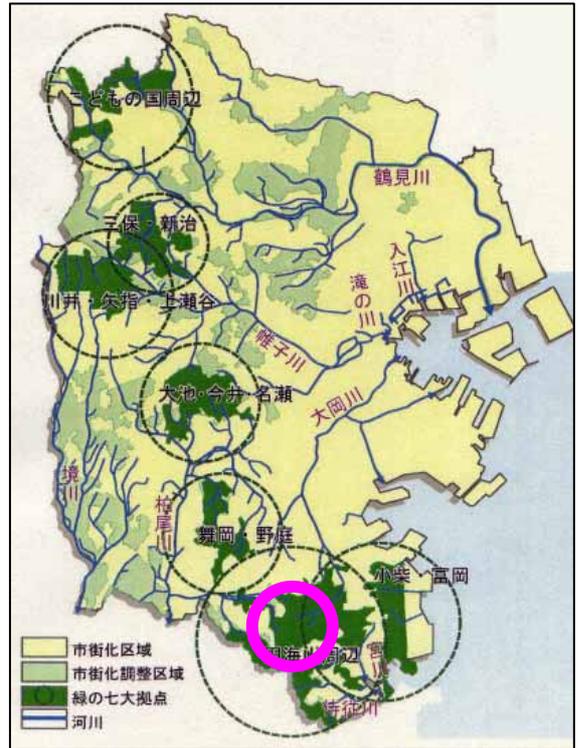


図2 . 市民参加の計画策定の流れ

横浜市環境創造局は、2004 年度より、この緑地の計画づくりを市民と協働で行ってきた（図2）。

2004 年度は“人を集める・関心を集める”ための行事を行い、円海山周辺の緑地全体が目指す方向性を共有化した。この目指す方向性に向けて、この緑地のうちの円海山近郊緑地特別保全地区について、2005 年度に“情報を集める”ために様々な市民参加型調査を行い、その結果や市民からの意見をもとに、2006 年度に“森の将来像の原案”をつくり、原案への意見を募った。2007 年度は、市民や専門家からの意見や、環境科学研究所の源流域調査の結果を踏まえ、“将来像(保全管理計画)の決定”をした。

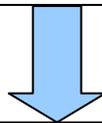
保全管理計画策定のねらいは、これらの計画策定の過程を通じて、また、計画の完成により、保全管理活動の意義を明確にすることで、市民による森づくりに関する活動の推進と発展を目指し、市民と行政の協働による緑地保全活動の流れをつくることである。

## 2 . 円海山周辺の緑地の保全管理の目的

円海山周辺の緑地の4つの特徴を踏まえ、市民と協働で緑地を保全するため、緑地全体がめざす方向を設定した。

### 円海山周辺の緑地の特徴

- 1) 横浜市で最も大きな緑地
- 2) 横浜市で最も高い山がある
- 3) 源流域の森である
- 4) 生物相が豊かである
- 5) 散策路が整備されており、多くの市民が散策、自然学習、生物調査、森づくり等で利用している。



円海山周辺の緑地の目的：

**「いきものに触れ合える、人もいきものものにぎわう森」**

大きな面積の緑地で、また、多様な環境のあるところでは生物多様性が高い。しかし、横浜市の緑地はここ30年で、急激に減少すると共に細分化している。市内では残り少なくなった広い緑地のうち最も大きな円海山周辺の緑地には、現在でも多くの生物が生息しており、周辺の緑地への生物の供給源としての役割も担っていると考えられることから、この緑地では、生物多様性の保全を目的とする。また、都市の中の貴重な緑地として、人が楽しみ、利用するだけでなく、その保全のために人が関わることで、人とその他の多くの生き物との共存を目指す。